

鉄・鋼・硬質金属のマーキングに 電気ペンシルA3型 EP-A3

この度は、電気ペンシルA3型をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用に際し、取扱説明書を最後までお読みいただき、正しい使い方で長くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

製品仕様	定格電圧	100V
	定格周波数	50-60Hz
	定格電流	4.2A
	加工可能材質	鉄、鋼、ステンレス鋼
	使用ヒューズ	5A (径 6.4 mm × 長 30 mm)
	本体サイズ	全高 115 × 全幅 208 × 奥行 257mm (概略サイズ)
	電源コード長	約 1.6m
	質量	約 6.5 kg (付属品含む)

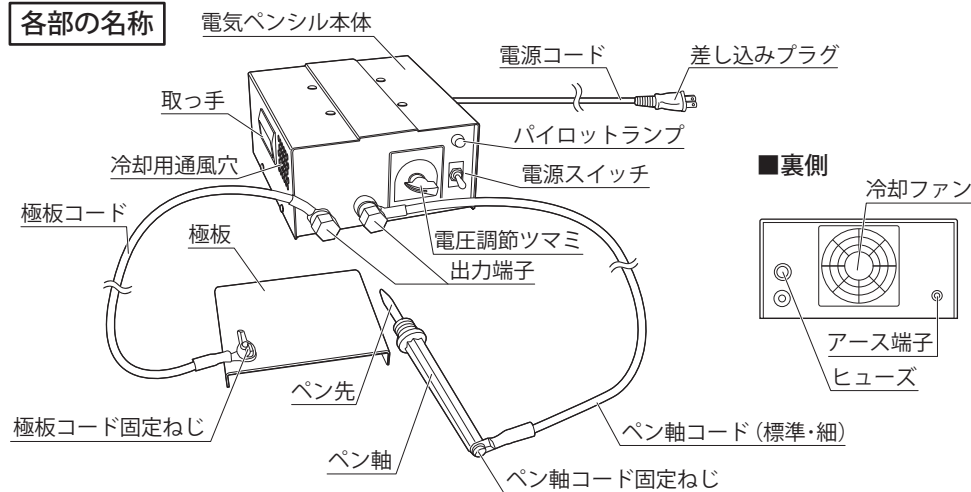
梱包内容

本製品は次の物が梱包されています。開封時にご確認ください。
万一、不足している物がありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

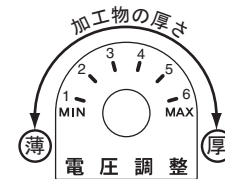
名称	数量	名称	数量
電気ペンシル本体	1	極板	1
ペン軸(ペン先付)	1	極板コード(約 1m)	1
ペン軸標準コード(約 1m)	1	取扱説明書(本書)	1
ペン軸細コード(約 1m)	1		

- ⚠️ご注意**
- マーキングできる加工物は鉄を主成分とした通電可能な金属（鉄、鋼、ステンレス鋼）に限ります。鉄、鋼でも黒皮の表面は通電しにくいので、マーキングできません。
 - 鉄を含まない非鉄金属（アルミ、銅、真鍮、超硬など）やプラスチックや木などの通電できない物にはマーキングできません。
 - マーキングする加工物が大きく、極板とマーキングする場所が離れる（通電する距離が長くなる）と通電性が悪くなりマーキングできなくなります。
 - 極板やマーキングする加工物の表面の通電性が悪いと、マーキングできませんので、汚れ・サビ・油脂類は完全に拭き取ってください。
 - 出力端子・極板コード固定ねじ・ペン軸コード固定ねじとコードは確実に締め付けてください。
 - 作業時間に比例してペン先・ペン軸は高温になりますので、必ず高温耐熱手袋等を着用し、ペン先には絶対触れないでください。ご使用中、ペン軸コード、極板コードも熱をもちますが、故障ではありません。
 - 長時間ご使用の際は、低温やけどの恐れがありますので十分ご注意ください。
 - 冷却ファンや冷却用通風穴を塞がないでください。
 - ペン先はマーキングにより磨耗します。
磨耗により先端が丸まった場合は、ヤスリ等で先端を尖らせてご使用ください。
 - 作業はお手元のいない場所で行ってください。また、手の届かない所へ保管してください。
 - 高温多湿の場所での使用・保管は避けてください。
 - 電源コードの上に重い物を載せたり、引っ張ったりしないでください。
 - 濡れた手で差し込みプラグを抜き差ししないでください。また、電源の抜き差しは必ず差し込みプラグを持って行ってください。
 - 長時間ご使用にならないときは、必ず電源スイッチを切り、差し込みプラグを電源から抜いてください。
 - ご自分での修理や改造はしないでください。
 - 本製品の用途以外のご使用は、絶対におやめください。

使用方法 ※必ず、⚠️ご注意をよく読んでからご使用ください。



1. 本体電源スイッチがOFFになっていることを確認してから、差し込みプラグを電源に差し込んでください。
2. 極板コードを極板コード固定ねじに接続してください。
3. ペン軸（ペン先付）をペン軸コード固定ねじに接続してください。
4. 本体に2つある出力端子の一方にペン軸コード、もう一方に極板コードを接続してください。（出力端子に極性はありませんが、どちらに接続してもかまいません。）
5. マーキングしようとする加工物を極板の上しっかりと置いてください。
極板との接触面が密着していないと、加工物の極板側の面に通電焦げ跡が残る場合があります。
6. ペン先やペン軸の金属部分が、極板やマーキングしようとする加工物に触れていないことを確認して、電源スイッチをONにしてください。
7. マーキングする加工物が薄い場合は、電圧調整つまみを1の方向に、厚い場合は6の方向に調整してください。（右図参照）
（マーキング具合にあわせて、電圧調整つまみを1～6に調整してください。）
8. ペン先を、マーキングする加工物に接触させることで、マーキングします。
ペン軸を鉛筆のように扱って、文字やマークを書いてください。
※書き終わり（ペン先がマーキングする加工物から離れるとき）にスパークが起りやすくなります。出力調整つまみで出力を弱く（1の方向に調整）してスパークを調整してください。



ペン軸細コードについて

- 付属のペン軸細コードは、ペン軸標準コードより細くしなやかなコードですので、ペンの取り回しが容易に行えます。

⚠️ご注意

- ペン軸細コードはペン軸標準コードに比べ細い分、出力電流がやや少なくなり、コード自体も発熱しやすくなります。
使用時間や加工物厚さなど、用途・条件に合わせてペン軸標準コードと使い分けてください。